所　信　表　明

令和８年１１月１３日

君津市長　石　井　宏　子

（所 信 表 明）

本日、令和８年第１回君津市議会臨時会にあたり、市長３期目の就任に際してのご挨拶と、今後の市政運営に臨む私の所信を申し述べ、市民の皆様並びに議員各位のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

はじめに

去る１０月１８日に告示された君津市長選挙におきまして、引き続き市政を担わせていただくこととなりました。

これまでの２期８年間の歩みを礎として、市民の皆様の期待に応え、君津の未来を切り拓くため、決意を新たに市政運営に臨んでまいります。

はじめに、この度の令和８年台風第２５号により被災された全ての皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。

今回の台風は、本市に極めて甚大な被害をもたらし、市民生活や地域経済に大きな影響を及ぼしました。

現在、国や千葉県、関係機関の皆様のお力添えをいただきながら、市民生活の再建と道路、河川、農地などの早期復旧に向け、全庁を挙げて取り組んでいるところであります。

被災された皆様が一日も早く安心した暮らしを取り戻し、再び希望を持って歩み出すことができるよう、災害からの復旧・復興を市政の最優先課題として、引き続き全力を尽くしてまいります。

一方、私たちを取り巻く社会情勢は、人口減少や少子高齢化の進行、長引く物価高騰、気候変動に伴う自然災害の激甚化など、大きく変化しております。

こうした時代だからこそ、目の前の課題に的確に対応するとともに、

将来を見据えたまちづくりを着実に進めていかなければなりません。

現在策定を進めている総合計画後期基本計画に、これからの君津市が目指す方向性を明確に示し、市民の皆様とともに、持続可能で希望の持てる未来を切り拓いてまいります。

市政運営に臨む想いと基本姿勢

３期目を迎えた今、私が改めて大切にしたいのは、「市政は市民の幸せのためにある」という原点です。

市政の目的は、事業を実施することでも、施設を整備することだけでもなく、その先にある市民お一人おひとりの暮らしをより良くし、幸せを実感できるまちをつくることにあります。

私は、この原点を決して忘れることなく、これからも市民の皆様の暮らしに目を向け、課題から逃げず、未来に向かって挑戦する市政を貫いてまいります。

そして、これからの４年間、私が特に大切にしたい言葉があります。

それは「つなぐ」ということです。

人と人をつなぐ。地域と地域をつなぐ。企業や関係団体、行政をつなぐ。

それは、単に人や組織を結びつけるということではありません。

それぞれが持つ思いや力、知恵や経験を生かし、互いに主体性を持って行動することで、一人では実現できない新たな価値を生み出していくことです。

行政もまた、受け身ではなく、自ら課題を見いだし、必要な人や組織に積極的に働きかけ、ともに解決への道を切り拓いていかなければなり

ません。

私は、この「つなぐ」という姿勢を、市政運営のあらゆる場面で大切にしてまいります。

そして、これまでの２期８年間で積み重ねてきた取組を確かな成果につなぎ、その成果を市民の皆様の幸せへ、さらには次の世代へとつないでまいります。

その実現に向け、私は市政運営の基盤となる「３つの土台」を大切にしてまいります。

第１の土台は、「命と暮らしを守る」ことです。

市民の命と暮らしを守ることは、行政に課せられた最も重要な使命です。

今回の災害で得られた教訓を今後の防災・減災対策に確実に生かすとともに、医療、福祉、子育て、教育など、市民生活を支える取組を着実に進め、誰もが安心して暮らせるまちづくりに努めてまいります。

第２の土台は、「健全な財政を次世代につなぐ」ことです。

人口減少や少子高齢化が進む中、将来を見据えた健全な財政運営が一層重要となっています。

限られた財源を最大限に生かすため、事業の必要性や効果、将来の財政負担を十分に見極めながら、行財政改革に取り組んでまいります。

守るべきものはしっかりと守り、変えるべきものは勇気を持って変えながら、将来のまちづくりに必要な取組を着実に進めてまいります。

第３の土台は、「便利で、身近な市役所へ」進化することです。

デジタル技術を活用し、行政手続きの利便性向上や業務の効率化を進める一方で、デジタルに不慣れな方への配慮も欠かしません。

市民の皆様にとって、相談しやすく、わかりやすく、頼りになる市役所を目指してまいります。

また、市役所の組織の壁を越えて職員同士が知恵と力をつなぎ、市民の皆様のために主体的に行動できる組織づくりにも取り組んでまいります。

市民との１０の約束を君津の原動力に

私はこれまで、市内各地域に足を運び、多くの市民の皆様や事業者、関係団体の皆様と対話を重ねてまいりました。

その中でいただいた温かい励ましや感謝の言葉、時には厳しいご意見の一つひとつに、君津への深い愛情と、より良いまちへの願いが込められていると感じております。

こうした皆様の思いを受け止め、私は３期目に取り組むべき政策を「１０の約束」としてまとめました。

先ほど申し上げた３つの土台の上に、これらの約束を一つひとつ積み重ね、君津の新たな可能性を切り拓いてまいります。

第１は、「台風災害からの復旧・復興を進める」ことです。

被災された皆様の生活再建を最優先に、道路や河川、農地などの復旧を着実に進めてまいります。

農業の再開に向けた支援にも力を注ぎ、地域の実情や将来を見据えながら、災害に強く、安心して暮らし続けられる生活基盤を築いてまいります。

第２は、「子どもたちの可能性をもっと広げる」ことです。

子どもたちは、君津の未来そのものです。

妊娠・出産から子育てまで、切れ目のない支援を充実させるとともに、学校施設の老朽化対策や体育館の空調整備など、安心して学べる教育環境の充実を図ります。

また、放課後や休日における子どもたちの居場所づくりを進め、一人ひとりの個性と可能性を伸ばすことのできるまちを目指してまいります。

第３は、「若者が君津で挑戦できるまちにする」ことです。

大学や企業などとの連携を深め、若者の学びや地元での就職、起業など、様々な挑戦を応援してまいります。

若い世代が夢や希望を持ち、自分らしい未来を描くことができる環境を整え、君津で育った若者が、将来もこのまちとつながり続けられるまちづくりを進めます。

第４は、「元気に、いきいき暮らせる君津にする」ことです。

健康で生きがいを持って暮らすことは、誰もが願う幸せの大切な基盤です。

介護予防やフレイル予防をはじめ、ライフステージに応じた健康づくりを推進するとともに、スポーツや文化活動などを通じた生きがいづくりを進めてまいります。

年齢を重ねても、自分らしく、いきいきと暮らせる地域社会を築いてまいります。

第５は、「どの地域でも、安心して暮らし続けられる君津にする」ことです。

地域公共交通は、通勤や通学、通院、買い物など、日々の暮らしを支える大切な基盤です。

ＪＲ久留里線の一部区間廃止に伴う代替交通の円滑な運行開始に向け

て取り組むとともに、それぞれの地域の実情に応じた持続可能な公共交通の再構築を進めてまいります。

また、防犯対策や交通安全の充実を図り、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境を守ってまいります。

第６は、「中山間地域の魅力をもっと活かす」ことです。

本市の豊かな自然や里山、農林業は、次の世代へ引き継ぐべき大切な財産です。

鳥獣被害対策や里山の保全、農林業の持続的な発展を支援するとともに、それぞれの地域が持つ資源や魅力を生かし、観光や交流人口の拡大につなげてまいります。

地域の皆様とともに、その土地ならではの価値を守り、育ててまいります。

第７は、「困ったとき、ひとりにしない」ことです。

高齢者や障がいのある方、生活に困難を抱える方など、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう、一人ひとりの状況に応じた包括的な相談・支援体制の充実を図ってまいります。

行政と地域、関係機関が連携し、誰もが孤立することなく、互いに支え合いながら安心して暮らせる地域共生社会を目指します。

第８は、「君津で生まれる仕事とお金を、君津で回す」ことです。

地域経済の活力は、市民の豊かな暮らしを支える大切な力です。

企業誘致や市内企業の成長支援、起業・創業の促進などを通じ、雇用の創出と地域経済の活性化を図ってまいります。

また、千葉ロッテマリーンズのファーム本拠地となるボールパークの整備を進め、スポーツを通じた新たな交流やにぎわいを生み出すとも

に、その効果を商業、観光、農業をはじめとする幅広い産業へとつなげてまいります。

地域で生まれた仕事や経済効果が、地域の中で循環し、市民の皆様の豊かさにつながる仕組みを築いてまいります。

第９は、「市民の『やってみたい』を応援する」ことです。

まちづくりの主役は、市民の皆様です。

地域をより良くしたい、新しいことに挑戦したいという思いを大切にし、市民が主役のまちづくり事業支援制度などを通じて、その一歩を応援してまいります。

自治会や地域づくり協議会など、多様な主体との連携を深め、市民一人ひとりの力が地域の力へとつながるまちづくりを進めます。

第１０は、「市民と一緒に、君津の未来を考える」ことです。

まちづくりには、様々な立場や世代の皆様の声が欠かせません。

地域や世代を越えた対話の機会を大切にし、いただいたご意見を施策の改善や新たな取組につなげてまいります。

また、市政の現状や課題、施策の進捗をわかりやすくお伝えし、市民の皆様と課題を共有しながら、ともに君津の未来を創ってまいります。

おわりに

これまでの２期８年間を振り返りますと、令和元年房総半島台風や新型コロナウイルス感染症、そして今回の台風第２５号など、幾度となく大きな困難に直面してまいりました。

しかし、そのたびに、市民の皆様、地域、企業、関係機関、そして市職員が、それぞれの立場で知恵を出し、力を合わせ、困難に立ち向かっ

てまいりました。

私は、こうした経験を通じて、改めて確信したことがあります。

君津の一番の力は、人の力であり、人と人とのつながりであるということです。

そして、その力をつなぎ、未来へと生かしていくことこそ、これからのまちづくりに求められていると考えております。

まちづくりは、市長一人でできるものではありません。行政だけで成し遂げられるものでもありません。

市民の皆様、地域、企業、関係団体、そして議会と行政が、それぞれの役割を果たし、互いの力を生かし合うことで、君津の可能性はさらに広がっていきます。

私は、市長として、その先頭に立ち、時には困難な決断からも逃げず、責任を持って市政を前に進めてまいります。

本市の将来都市像である「ひとが輝き　幸せつなぐ　きみつ」。

この言葉に込められた思いを、理念にとどめることなく、市民の皆様が日々の暮らしの中で実感できるものにしていかなければなりません。

これまでの歩みを、確かな成果へ。

その成果を、市民の幸せへ。

そして、その幸せを、次の世代へ。

「つなぐ」という思いを胸に、これからの４年間、全力で市政運営に取り組んでまいります。

結びに、市議会議員の皆様をはじめ、関係機関の皆様の一層のご理解とご協力、そして市民の皆様のお力添えを心よりお願い申し上げ、私の所信表明といたします。